

# 第3回 クラシエ 漢方講演会 in 静岡

拝啓

時下、先生方におかれましては益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

この度、下記の要領にて漢方勉強会を行う運びとなりました。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、是非ともご参加頂きたく御案内申し上げます。

敬具

日時 平成 26 年 4 月 1 日 (水) 19:15~21:00

※講演会終了後、意見交換会を予定いたしております。

会場 静岡第一ホテル 2F 富士 静岡市駿河区泉町 1-21

TEL 054-281-2131

情報提供

19:15 『クラシエ漢方製剤のご紹介』

クラシエ薬品株式会社 医薬学術部

19:30

演題

『症例提示から学ぶ～気剤の使い分け～  
血と水の原動力となる氣を補い動かす漢方薬』

座長

東新田福地診療院

院長 福地 康紀 先生

講師

つちうら東口クリニック

院長 川嶋 浩一郎 先生

主催 クラシエ薬品株式会社 中日本医薬支店 担当：長野 晃久

TEL：054-653-7586

Mobile：080-3495-9324

＜ 第3回 クラシエ 漢方講演会 in 静岡 ＞ FAX：054-253-5763

御出席

御欠席

御施設

御芳名

川嶋先生より - 講演要旨 -

今回は氣のお話をさせていただきます。氣というとは一般的には気持ち、気力、気働きなど精神的なものと思われがちですが、漢方の氣とは、生命エネルギーそのものであり、水血と氣の全てを動かす原動力であり、生命活動そのものを指しています。

水が氣を失えば水滯、水毒、痰飲となり、血が氣を失えば、血行が滞って瘀血となります。氣が衰えて水血の動きが悪くなり、水血が目的の場所に到達できなければ氣も不足するので気虚となり、乾燥や血虚（局所の貧血）を生じます。

セリエが提唱したストレス学説の初期ストレス反応である警告反応期は、身体的精神的ストレスで交感神経が興奮した状態です。交感神経の緊張により、神経と直結している表皮のLangerhans細胞が興奮し、炎症性サイトカインが増加して、自然炎症が活性化され、局所や全身の炎症性浮腫や充血うっ血をきたしやすくなり、漢方で言うところの水毒や瘀血の状態になります。氣が安定して充実すれば、交感神経活動が沈静化して、瘀血や水毒が改善します。

氣を補い、氣を巡らせ、氣を降ろす生薬がいくつかあります。また、冷えと湿気があると氣の巡りが悪化して凝りや疼痛を生じやすくなるので、氣が動きにくいときには、温補と利水を兼ねた生薬を追加することもあります。

氣に関連した代表的な生薬の働きを知ること、漢方薬の運用の幅を広げて、治療効果を高めることが可能であることを症例を交えてお示ししたいと思います。



川嶋 浩一郎 先生

1981年 筑波大学医学群医学類 卒業  
 1985年 筑波大学心身障害学系講師  
 茨城県立こども病院神経科非常勤（現在も継続）  
 1992年 西荻司ビルクリニック開設  
 1998年 つちうら東口クリニック開設、現在に至る

【会場案内】

◆ お車でお越しの場合（静岡インターより約10分）

駐車場の数に限りがあります。満車の場合は近隣駐車場（有料）をご利用ください。公共交通機関のご利用をお願いいたします。



◆ 電車でお越しの場合（静岡駅より徒歩約7分）

